



防災会より

もう一度ふりかえって

平成7年1月17日の兵庫県南部地震では、一瞬にしてライフラインが断たれ、建物の倒壊や火災の発生に加えて、防災機関が思うように動けず、6千300余名の尊い生命が奪われる被害となりました。また、昨年のトルコ地震、今回のインド西部地震では、犠牲者が2万5000人となるなど、想像を絶する天変地異が地球規模で起こっています。

大災害が起こると、防災機関は総力をあげて取り組まれますが、すべての地域に十分な対応は不可能だと思います。そんなときにこそ、正しい知識をもって自分や家族、自分たちのまちを守るために活動する組織が必要となってくるのです。そのためには、地域のグループなどのネットワークを生かして、地域ぐるみで協力して、災害・被害に強いまちづくりに取り組む必要があるのです。

加古川グリーンシティ防災会は、「自分たちのまちは自分たちで守る」ための組織です。災害が起こったときは、一人ひとりがバラバラに動くのではなく、みんながまとまり、協力し合うことで効果的な活動ができます。

今一度、もしもの時の体制づくりを家族単位で話し合ってください。

いざというときのお手伝いができるようにと発行した加古川グリーンシティ防災マップを活用し、地震や火災などの災害が発生したとき、自分たちの安全を守り、被害を最小限にとどめるために。

「災害は忘れた頃にやってくる」